

2026年3月1日

シンポジウム

【3.11から15年】福島からつながる声

——核なき世界をめざして

福島第一原発事故から15年 教訓は活かされたか？

国際環境NGO FoE Japan

満田夏花

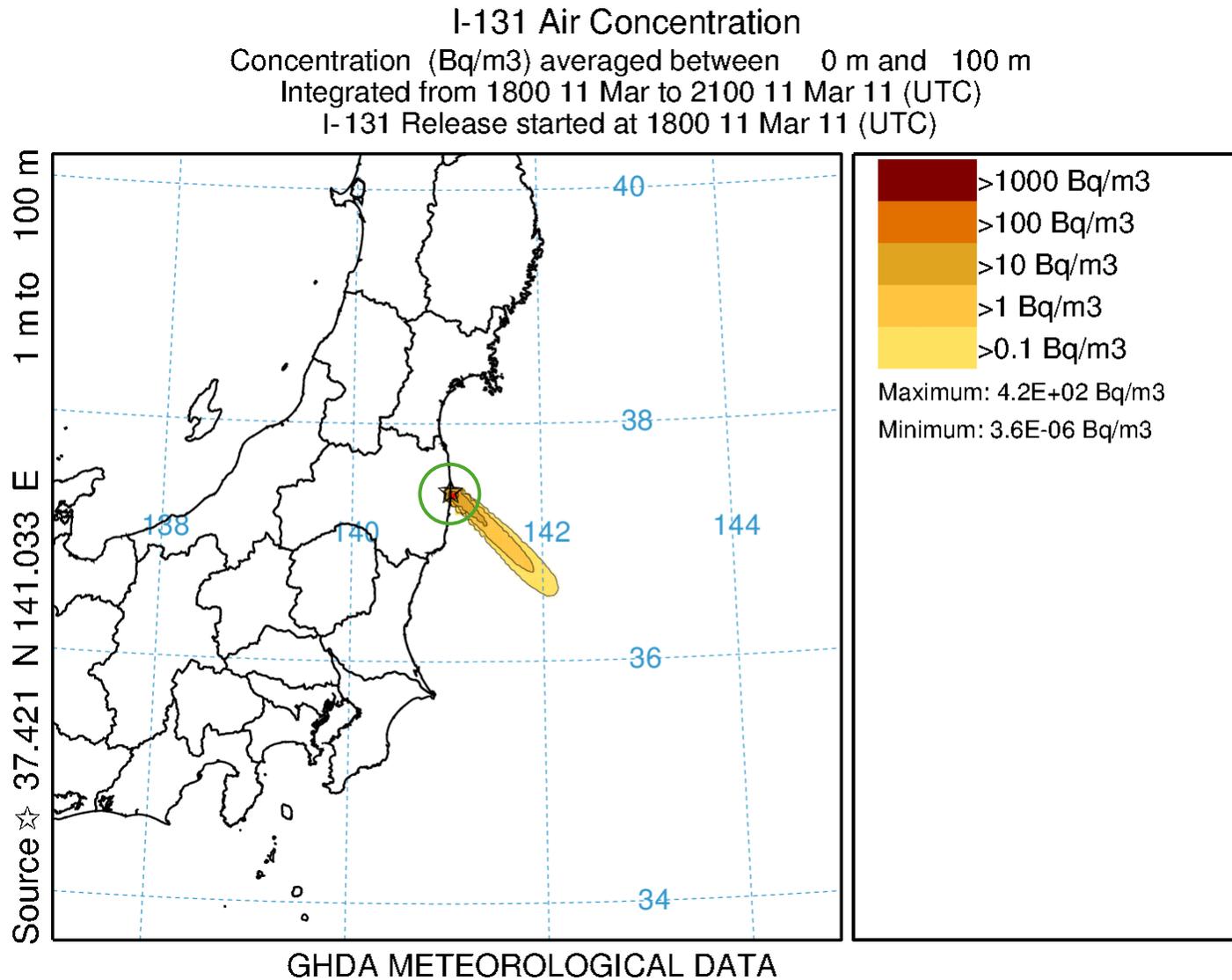
福島第一原発事故

- 2011年3月11日の東日本大震災により発生
- 津波により全電源喪失→事故原因は完全には究明されていない
- 3つの原子炉建屋で‘水素爆発’
- 国際原子力事象評価尺度（INES）で最悪のレベル7の過酷事故
- 十数万人が避難を強いられた
- 東電は早い段階でメルトダウン（炉心溶融）を認識していたが隠蔽→5月12日ようやくメルトダウンを認める



2011年 3月11日	14:46 19:03	東日本大震災発生 原子力緊急事態宣言発令	福島第一原発の半径3km圏内に避難指示 福島第一原発の半径3kmから10km圏内に屋内退避指示
3月12日	15:36	福島第一原発1号機建屋が爆発	福島第一原発の半径20km圏内に避難指示
3月14日	11:01	3号機建屋が爆発	
3月15日	6:12	4号機建屋が爆発 2号機格納容器破損	福島第一原発の半径20kmから30km圏内に屋内退避指示

Attachment B-2: Animation of ¹³¹I dispersion in atmosphere



2011年

年20ミリシーベルト基準反対運動



2011年4月：学校の利用目安として文部科学省が年間20 ミリシーベルト基準を通知。公衆の被ばく限度の20 倍もの基準に批判の声が高まる

5月23日、福島のパウチらが文科省を包囲。撤回を迫る

文科省は、「年1ミリシーベルトを目指す」と通知。うやむやに？

→年間20ミリシーベルト基準は、避難指示の基準として、また避難指示解除の基準として使われた

2011年

避難の権利を求める運動

- 避難指示区域外からも多くの人たちが避難。賠償もなかった。
- 避難したくてもさまざまな事情で避難ができない人も多かった



【避難者の声より】

- 小さな山を一つ越えると、避難区域です。そんな場所に小さい子どもを住ませることはできません。親として子どもを守るのは当然です。
- 避難したくて、避難しているわけではありません。どれほど悩んで避難したか。また災害が起こる可能性、何かあった時子どもを守れるかどうかなど、本当に悩みぬき避難しました。
- どうか私達「自主避難者」と呼ばれる者が、断腸の思いで選んだやり方を、愛する人達を守る正当な方法であることを理解して下さい。私達は福島を捨てたわけではありません。守るべき人を守りたいだけです。
- 線量が高い。家の中で $1 \mu\text{Sv}$ / 時を越えます。そんな環境に子供を住まわせていいのかと不安です。

2012年

反原発運動の高まり



さようなら原発10万人集会（2012年7月16日）
撮影 野田雅也氏（JVJA）



官邸前の再稼働反対デモ
撮影：横関一浩氏

2012年

エネルギーと環境に関する「国民的議論」

ほぼ全員「原発ゼロ」
福島でエネ・環境意見聴取会



県民が今後の原発比率について考えを発表した「意見を聴く会」で壇上に並ぶ発言者とあいさつする細野環境相（右）

福島民報（2012/08/02）東日本大震災アーカイブ

- 3つの選択肢：原発ゼロシナリオ、15シナリオ、20-25シナリオ
- 4つの視点：原子力の安全確保、エネルギー安全保障、地球温暖化問題の解決、コスト抑制
- 意見聴取会、パブリック・コメント、討論型世論調査などを実施



2012年9月14日「革新的エネルギー・環境戦略」決定
「2030年代に原発稼働ゼロが可能となるよう、あらゆる政策資源を投入する」

2012年12月、衆院選挙で民主党大敗。
第二次安倍晋三政権発足で、白紙に

福島原発事故の教訓は何だったのか

- 複合災害…地震・津波・原発事故
- 広範囲にわたった放射能汚染
…30km以遠の飯舘村も全村避難
…60kmはなれた福島市も $20\mu\text{Sv}/\text{時}$ 超
- 狭すぎ、遅すぎた避難指示…避難指示の基準を年 20mSv とした
- SPEEDI（放射能予測システム）が活用されず、汚染の方向に避難
- 守られなかった「緊急時マニュアル」
- 困難をきわめた要援護者の避難

→ 「住民を被ばくから守る」ことよりも
「大ごとにしなない」「混乱を避ける」「社会的インパクトをなるべく小さく」「避難はミニマムに」「産業を守る」に重点が優先された
この傾向は、原発事故後、さらに強まり、巧妙化された

03 避難区域の変遷



▲ 2011年9月30日時点
 図 避難区域の変遷



▲ 2025年3月31日時点
 出典：避難区域の変遷について—福島県ホームページ

05 避難者の数は？

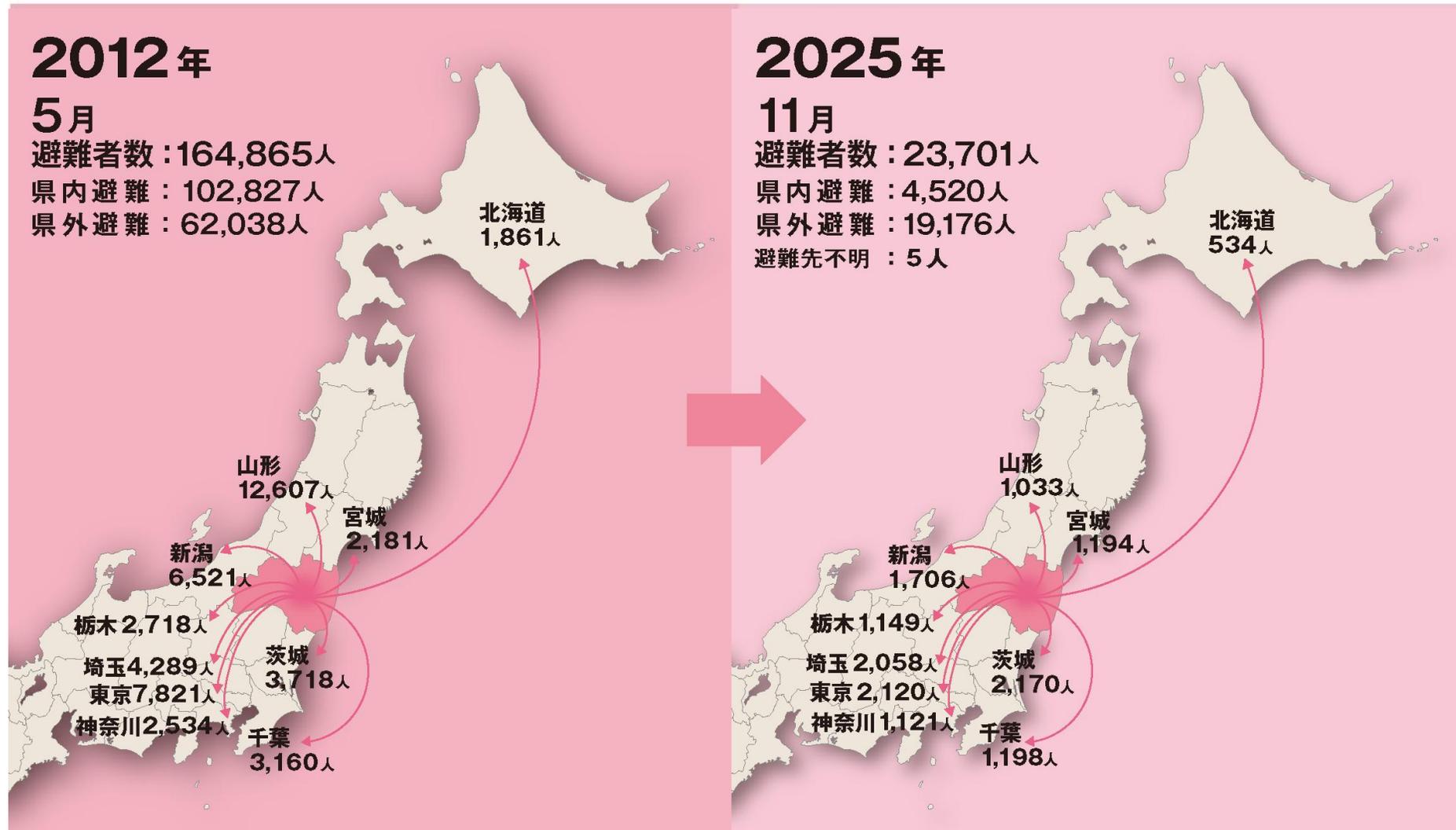


図 福島県からの避難者数と避難先

出典：「ふくしま復興情報ポータルサイト」より作成

「図でみる：福島第一原発事故から15年」

04 旧避難指示区域の居住者数の推移

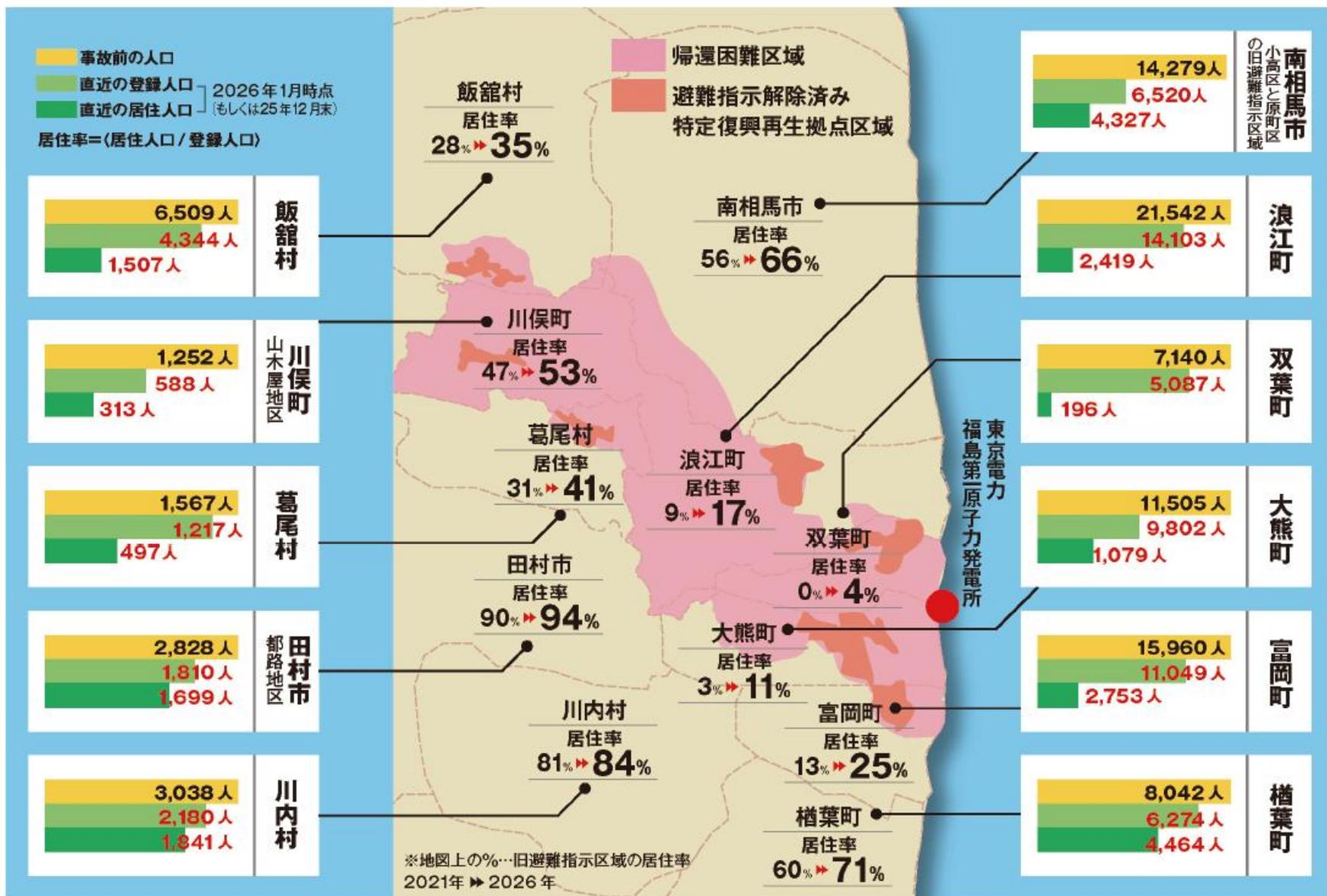
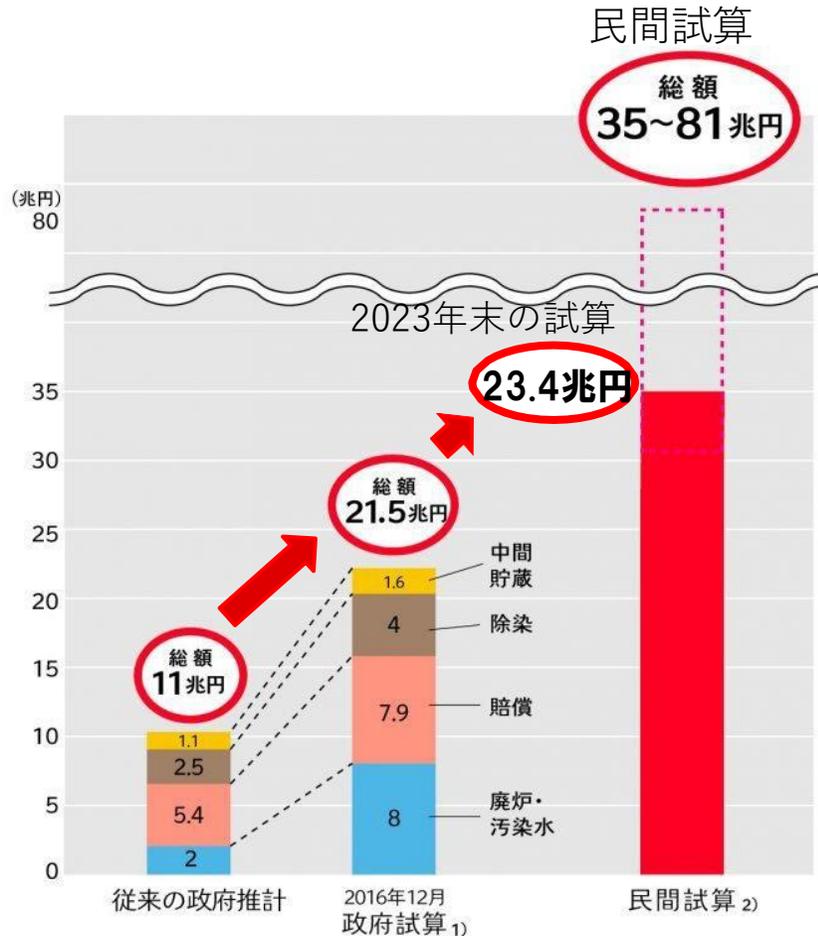


図 旧避難指示区域の人口および居住状況

出典：各自治体データをもとに作成

「図でみる：
福島第一原発事故から15年」

福島第一原発事故処理の費用は？



政府が示す福島第1原発事故処理にかかる費用の想定

	想定額	増減	当面の原資	将来的な回収方法
賠償	9.2兆円	+1.3兆円	国債を 発行し、 国が 立て替え	電力会社の負担金
除染	4.0兆円	+		東電株の売却益
中間貯蔵	2.2兆円	+0.6兆円	東電が積み立て	国費
廃炉	8.0兆円			
合計	23.4兆円	+1.9兆円	(うち東電の負担総額) 16兆円超	

東京新聞「福島第1原発の事故処理費用は23兆円…2023年末に2兆円引き上げ 収束の道筋が見えず、さらに膨らむ恐れ」(2024年3月4日)

1)「東京電力改革・1F問題委員会」2016年12月9日発表

2) 日本経済研究センター

「事故処理費用、40年間に35兆~80兆円に」2019年3月7日

09 原発の稼働状況（日本）



- 福島第一原発事故前、原発は54基
- いったんすべての原発が停止
- その後、再稼働した原発は15基
- 東日本では、11年以上「原発ゼロ」
- 2024年10月、女川原発2号機が稼働
- 2026年1月には、柏崎刈羽原発6号機が再稼働
- 事故、トラブル、訴訟、スキャンダルが相次ぐ
- 1997～2010年までの事故故障等の報告件数は267件にもものぼる

図 原発の稼働状況とトラブル

出典：資源エネルギー庁資料および各種報道をもとに作成

「図でみる：福島第一原発事故から15年」

原発事故は終わっていない

- 多くの人々がふるさとを失った。生業、人とのつながり、四季折々の自然の幸を分かち合う喜びを失った。家族、コミュニティ、社会での深刻な分断がおきた。今なお被害は続いている。
- 原子力損害賠償法の賠償措置額（1200億円）は据え置かれているが、賠償・廃炉・除染などの費用は政府試算で23.5兆円にものぼる。すなわち、現行制度のままでは、万が一次なる事故が生じたときに、原子力事業者だけは賠償金が払いきれず、再び、国による手厚い支援が行われ、そのツケは国民および将来世代にまわされる。
- 原発事故に対する国および東電の責任は、あいまいにされたまま。

図でみる

福島第一原発事故から15年

- 事故被害の状況は？
- 日本と世界の原発は？
- ウランはどこから？
- 核のごみのゆくえは？



「図でみる 福島第一原発事故から15年」

